

## 整理しておくべき事項（メモ）（記述式）

川嶋 太津夫

- これまでの本検討会議における議論や実態調査の結果等を踏まえ、記述式問題のあり方に関して、論点を整理しておく必要がある。

### （1）記述式問題の意義、問うべき能力、対象教科等

【参考 1】実態調査の区分

「短答式・穴埋め式」「短文」（120 字以下）「長文・小論文」（121 字以上）「図表・グラフ・絵等」「英文和訳、和文英訳」

【参考 2】国公私を通じて、全ての教科で記述式が出題されている実態がある。（11/27 実態調査 P. 7～12）

【参考 3】11/27 岡委員発表資料

各大学が出題意図、求める能力等を募集要項等で明確にした上で受験生に記述式問題を課すこととし、「新しい考えをまとめる思考・判断の能力や、その過程を表現する能力」「自らの考えを立論し、さらにその過程を表現する能力」をさまざまな選抜を通じて、丁寧に問う。

### （2）共通テストにおける記述式出題の実現可能性

- ① 指摘された課題（例：採点者の質、自己採点との乖離、民間活用に伴う利益相反の疑義、成績提供時期の遅れ 等）
- ② 課題の解消策として提案されたもの（例：大学教員による採点、出願前の採点結果通知、実施時期の前倒し、CBT や AI の活用等による採点システムの開発）

【参考】採点上の課題（11/27 山本理事長資料より）

- 各大学への成績提供時期を踏まえると、短期間（現在の大学入学者選抜の日程の下では成績提供日の遅れを含め約 20 日間）で約 55 万人の答案を採点（少なくとも 2 人以上による採点・チェック）する必要がある。
- 記述式問題の性質上、約 55 万人の答案を短期間に採点する中で、採点ミスをゼロにすることは極めて困難。

### (3) 個別入試における記述式出題

#### ① 出題の現状

- ✓国公立：99%のテストで出題、記述式問題の割合は70～80%
- ✓私立：54%のテストで出題、記述式問題の割合は25%

#### ② 各大学のAP・事情に応じた対応

- ✓国公立：志願者数が少なく、歩留まり率が高い（大学入学者選抜基礎資料P.133～134）
- ✓私立：志願者数が多く、歩留まり率が低い（大学入学者選抜基礎資料P.135）

### (4) 国による出題支援措置

- ✓国・センター・大学等の協働による良問の整理・提供
- ✓出題へのインセンティブ付与
- ✓記述式出題の全体状況の情報提供

### (5) 高校までの教育の充実

- ✓新学習指導要領の徹底  
（主体的・対話的で深い学びの推進による思考力・判断力・表現力の育成）
- ✓高大連携プログラムの充実（好事例の普及）

### (6) 大学入学後の教育の充実

- ✓思考力・判断力・表現力の育成について3つのポリシーでの明確化・連動強化
- ✓質の高いプログラムの充実（好事例の普及、インセンティブの付与）